

日風園

高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ

第65号 2008年9月1日

資料見聞

時代を映す絵葉書

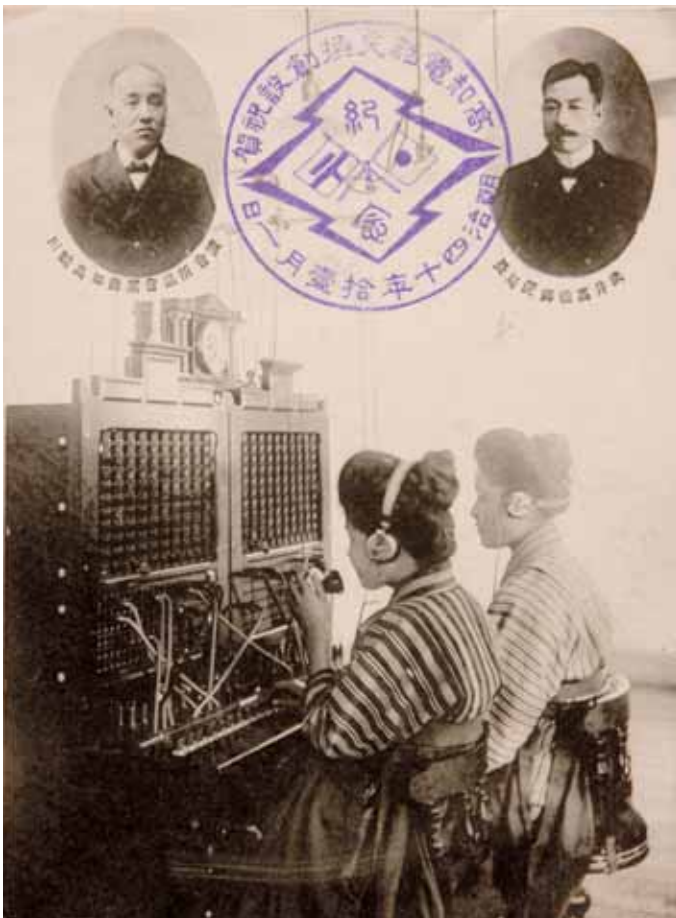
明治維新後、先進国の仲間入りを果たすため、国をあげて近代化に邁進した日本。

欧化政策の名のもとに、街並みや産業構造、果ては生活様式に至るまで、国中に大変革の波が押し寄せました。その結果、仕事や生活のすべてにおいてスピードが求められるようになり、これまでにない、新しいインフラ（産業基盤・生活基盤を形成する構造物の総称）が必要とされました。

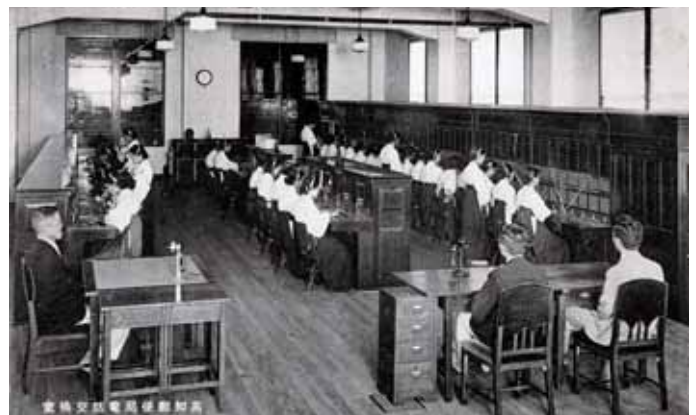
西南戦争や日清・日露の対外戦争を経験した日本では、軍用・官用の電信電話網が急速に発達しました。特に、電話の利便性が広く知れ渡ると、民間においても電話に対する需要が高まってきました。

高知で電話が使用できるようになったのは、明治四〇年一月一日のこと。加入者僅か一五三人からのスタートでした。

当時の電話は、受話器をとって電話局の交換手を呼び出し、相手の電話番号を告げて電話をつないでもらうという面倒なものでした。そこで、この手間のかかる交換手に



「明治四十年拾壹月一日高知電話交換創設祝賀」（藤本寫眞館撮影）
高知市民図書館・伴文庫



「高知郵便局電話交換室」 広谷喜十郎氏蔵

は、低賃金で雇用できる女性が最適ということになったのですが、他業種でも女性の社会進出が進んでいたため、明治四〇年には、「電話交換手」が不足する事態となりました。

高知での採用状況についてはよく分かりませんが、OLの元祖ともいえる彼女らを収めた絵葉書が残されています。

緊張を強いられる職場環境のなか、日本髪に和服姿の大和撫子が、ヘッドホンをかぶっていかつい機械の前に座っている姿を見ると、この時代の雰囲気

（野本）

「絵葉書のなかの土佐 ― 移ろいゆく時代の記憶 ―」によせて

学芸専門員 野本 亮・中村淳子

平成20年9月26日(金)～11月24日(祝・月)

電子メール全盛の昨今ですが、年賀や暑中見舞いなどでは、個性的な写真イラスト、文字、素材などにこだわったオリジナルの「絵葉書」が依然根強い人気を持っています。

今回の展示会は、私達の身近にあるこの絵葉書が主人公です。戦前に作られた土佐関係のものを約五百枚程度展示し、近代化してゆく郷土の様子を概観します。

懐かしさと新鮮さが同居する絵葉書の世界から、みなさんは何を感じるでしょうか。

絵葉書の誕生

葉書に絵や写真を印刷して付加価値を付けた「絵葉書」は、明治初期頃、主に外国人向けの土産として作られるようになりました。その後、明治三三年(一九〇〇)に、私製葉書の投函が許可されると、大都市を中心に製造・販売量が増え、その動きは地方にも飛び火していきました。

当時、使用されていた絵柄は、観光名所や美人画の類が中心でしたが、日露戦争を契機にその様相も変わって



「画葉書軍の行動」(『日ボン地』第16編) 東京大学法学部明治新聞雑誌文庫 美人絵葉書で儲ける絵葉書屋を風刺したもの



「戦地ニ於ケル海軍ノ天長節ト東郷大将」(第三回戦役記念郵便絵葉書 天長節ノ部) 高知市民図書館・中城文庫

きます。

絵葉書ブーム

日露戦争の最中、国威発揚のため、通信省が発行した戦役記念絵葉書は全部で二三種類。全国であつという間に売り切れが続出する大ブームを巻き起こしました。戦勝に酔いしれていた国民のニーズに合致した結果でしたが、何より戦場の光景を写真やイラストでリアルに伝えたことが新鮮でした。以後、戦争や軍隊をテーマにしたもの、様々な事件や災害をテーマにしたもの、華やかな皇室行事を扱った報道的絵葉書が登場し、単なる土産や郵便物の水準を超えた、メディアと同様の内容をもつたものも現れました。

高知県内の絵葉書事情

先に述べた絵葉書ブームですが、本



高知市新京橋での画(絵)葉書販売 高知市民図書館蔵

県でも、新興富裕層や大都市の情報に精通している知識人などが流行の絵葉書を買って求めた形跡があります。また、日露戦争に従軍していた兵士が絵葉書を使って県内の家族などに宛てたものも確認されていますので、かなりの反響があつたことが分かります。本県で私製絵葉書が恒常的に製作されるのは、現在残されているものから推測すると明治四〇年前後ではなかつたかと思われれます。

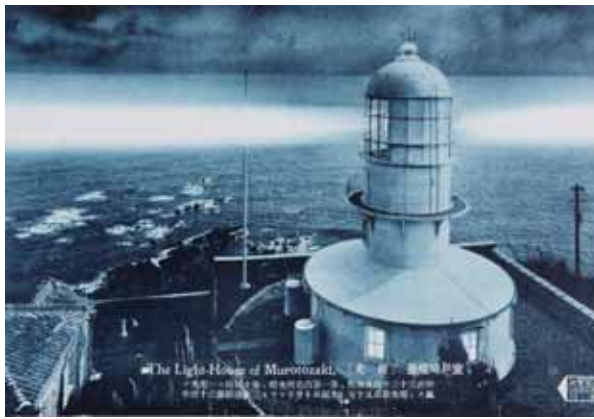
戦前、県内各地で絵葉書を製造・販売していたのは、主に書店・写真館・土産物屋(雑貨商)の三つに大別されます。都市部の印刷業者・絵葉書店の刺激を受けて、序々に製作するようになり、大正から昭和にかけてそのジャンルを広げていきました。

ただ、美術作品や美人画をモチーフにした絵葉書は、都市部の業者の独壇場でした。したがって本県の業者は、主に室戸岬や高知城、龍河洞に桂浜といった観光客目当ての土産用絵葉書と、近代化の過程で行われた各種のイベント、変わりゆく街並みや風俗を捉えた記念品としての写真版絵葉書を中心に製作したようです。

観光名所絵葉書

観光名所をテーマとした絵葉書は、全く同じ構図のものが多数みられます。当時の「売れ筋」だったものに、藩政

期からのシンボル高知城の景観を収めたものがあります。お決まりの追手門側からの構図ですが、撮影された年代や製作者が異なると、同じ構図でも細部に違いがみられます。そうした細かい部分を比較してゆくのも絵葉書の楽しみ方の一つかもしれません。



「室戸崎燈臺」(エビゼン商店発行) 高知市民図書館・安芸文庫

室戸岬は早くから観光名所として知られていましたが、「日本八景」に出されてから一気に知名度があがり、絵葉書もたくさん製作されました。室戸の絵葉書といえば「エビゼン商店」。御子孫の方のお話によれば、エビゼン商店では、店主と大番頭自らが大阪から仕入れた写真機を使って撮影を行い、乾板を和歌山の印刷屋に持つて行って絵葉書を作らせていたそうで

す。室戸は知名度が高かっただけに県外の業者もどんどん参入してきたことで、よりレベルの高い写真を絵葉書に使うようになりました。

記念品としての絵葉書

戦前、絵葉書を製作していた業者の多くは、観光土産用の絵葉書ばかりを作っていたわけではありません。

皇族の来高や、軍国主義的教育を實踐する学校。帝国陸軍歩兵第四連隊の演習風景など、政治体制に賛賛的な絵葉書も作っていました。

また、高知市内の建物の落成や架橋・開通記念といった数々の記念行事の際に、関係者向けに配られる記念絵葉書もかなり製作されています。こちらの方は販売用ではなかったと思われるますが、受注量も多く商売としては十分成り立っていたようです。

このタイプの絵葉書は、全体としてモノクロ写真を印刷しただけの地味なものも多く、都会の絵葉書のような多色刷りや手彩色のものは滅多にありません。美しさや華やかさがない分、かえって和洋折衷の街並みや建物の趣が伝わってきます。

戦前、市内交通の要衝といえは「はりまや橋交差点」と「浦戸棧橋」でした。現在、残念ながら棧橋の方はただの通過点になってしまいましたが、はりまや橋付近の賑わいは昔のままです。

高知市街に軌道が敷設され、電車が走り出すと、近代化を象徴するものと



昭和初期の播磨屋町交差点 島崎 誠氏蔵



平成の播磨屋橋交差点

して、多くの絵葉書業者が電車の走る風景にこだわりました。

今回の展示会では、絵葉書のなかの風景を三〇箇所近く選り出し、現在との対比展示を行います。私達学芸員とご協力いただいた調査員がどれだけ当時の撮影ポイントに立てたか注目してみてください。

電車は走り出したものの、依然陸の孤島状態であった本島。昭和一〇年になってようやく国鉄土讃線が全線開通しました。



高知駅構内の蒸気機関車 島崎 誠氏蔵

南国土佐大博覧会は、この土讃線開通を記念して昭和一二年に行われ、大変な賑わいを見せました。絵葉書業者も滅多にない大イベントだったので、総力を結集して写真撮影を行い、派手な意匠を施した記念絵葉書セットを販売しました。



「土讃線全通記念南国土佐大博覧会」
広谷喜十郎氏蔵

記録写真としての絵葉書

一方、藩政期さながらの風景や生業にこだわったものも作られました。

明治三、四〇年代には、アマチュアカメラマンらによる撮影会も行われていた本県。現在のアーカイブ的な視点で撮影を行い、それを自ら絵葉書にしていた人たちがいたのです。

彼等の多くは高知市郊外、または郡



「水稻第一期刈取と第二期作の挿稲」 島崎 誠氏蔵

部で多くの写真を撮りました。というのも、郡部には藩政期の面影を遺した地域がたくさんあったからです。また、生業をテーマとした写真も撮影されました。漁業や林業が比較的多く、特に漁業では、捕鯨や鮪・鰹・鰯・サンゴ漁などが散見されます。水産加工業では、鰹節製造を捉えたものがあり、それぞれ貴重なのですが、撮影上の制約のせいも、よくみるといわゆる「ヤラセ」っぽいものもあります。

これらの伝統産業や、集落景観を収めた写真の一部は絵葉書業者にも買われ、記念絵葉書に使用されたものもありました。

とても「売れ筋」とは思えないこの種の絵葉書が作られた背景には、変わりゆく「今」を遺したいという、作り手と買い手双方のニーズと、明治以来一環して行われてきた郷土教育、愛郷精神の涵養が背景にあったことも見逃せません。

絵葉書には、その時代を生きた人々の「時代観」が投影されているのです。

郵便事業の歴史

展示室内には、明治時代の郵便局の窓口を復元します。このコーナーでは、郵政資料館から葉書や郵便事業の歴史を紹介した写真パネルをお借りして展

示します。また、明治時代の郵便外務員の制服（複製）なども展示します。で、絵葉書ブームの背景にあった郵便事業の発達についてもご覧いただけます。



「開化幼早学門」国政画
郵政資料館蔵

聞く・見る・作る絵葉書イベント

絵葉書展をご覧になって、「もつと深く絵葉書のことを知りたい！」と思われる方には、れきみん講座「絵葉書の歴史」や展示室トークなどをご用意しています。担当学芸員が絵葉書の魅力をたっぷりお話しします。

中でも一〇月一八日の座談会「絵葉書の中の風景を語る・土佐の明治・大正・昭和」は、土佐を隈なく歩いてきた民俗調査の達人、前館長の坂本正夫氏と、土佐の文化財行政に情熱を注ぐ館長・宅間一之が土佐の風景の移り変わりを、数百枚の絵葉書をもとに熱く語り合います。

また、葉書に親んでもらおうと、「虫くいはっぱの花展・白川基子作品展」の同時開催を企画しました。

「葉っぱの白川さん」こと白川基子さんの葉書を展示します。

白川さんはきれいな花びらではなく葉っぱ、しかも虫くいのある葉っぱを作品の素材に選びました。虫くい葉っぱのような、完全ではなく欠けたものに宿る美にこそ惹かれる方なのでしよう。そんな白川さんが作る葉書は何とも趣があり、可憐で繊細です。

牛乳パックから一枚一枚葉書を手で漉き、無心になって葉っぱを貼っていると、いつの間にか花になったり魚になったり：自然に形が現れてくるようです。白川さんが葉書に葉っぱで咲かせた花を、ぜひご覧ください。白川さんは一月九日に虫くい葉っぱをはりつけてオリジナル葉書を作るワクワクワーク「虫くいはっぱではがきを作るう！」の指導もしてください。



白川基子さんの作品

さらに、武吉孝夫さんの茅葺き民家の写真展（次頁参照）も同時開催するなど、絵葉書展は盛り沢山です。多くの皆様のご来館をお待ちしています。

茅葺き民家のある風景

— 武吉孝夫撮影 —

九月二六日(金) — 一月一九日(水)



'77 栲原 武吉孝夫氏撮影

茅葺根の葺き替えはテレビなどの映像でみることはあっても、生で見る機会はなかなか無いですね。しかし、本年一月には歴史館の屋外展示、味元家住宅で葺き替え作業が見られます。この茅葺きプロジェクトと絵葉書展のダブル関連企画として「茅葺き民家のある風景・武吉孝夫撮影」をフリースペースにて開催します。今や珍しくなった茅葺き民家が見えるなつかしい風景を、四万十町にお住まいの写真家、武吉孝夫さんが撮影した写真によって紹介します。

茅葺き屋根に降り積む北国と見まがう雪には驚かされ、民家に暮らす人びとの表情には胸が熱くなります。武吉さんの写真集『津野山郷』への未掲載写真は初公開です。昭和五〇年代に栲原町で行われた村人総出の茅葺き普請が活写されていますので、歴史で実際に行われる葺き替えと比べても面白いですよ。また、「いつもは人の営みを追いかけて、泥臭い写真を好んで撮っているけれど、今回はソフトにいくからね」と、武吉さん。詩情あふれる民家の写真展です。(中村)

歴史館のパーティオ(6)

土佐戦国の城回廊

館長宅問一之

岡豊城の国史跡指定は、本県にとつては佐川町不動ヶ岩屋洞穴遺跡の指定以来三十年ぶりのこと、文化財保護の上からは近年最大の慶事であり、県民の関心も話題性も高い。

天守そびえる近世の城は、現代の都市では象徴的存在で観光資源ともなっているが、中世の城は、名はあっても「何も無い」。しかし、城研究の上からは宝庫である。岡豊城も長宗我部氏の居城で、桜の名所であることはよく知られているが、城本来の歴史的な意味はあまり知られず、人々の関心もいまひとつである。

城は「土の城」から「石の城」へと変化発展する。戦国時代を生き抜く「戦つ城」から、近世太平の世の「見せる城」への変化である。その過渡期に織田・豊臣の政権がある。この期の城を織豊系城郭と呼ぶが、岡豊城は当時の特色をよく備えた城である。近世の城郭には見られず、また中世の城とも違つ技があり構えがあつて、人々を魅了する。

土佐には七〇〇を越す中世城館があ



る。なかでも安芸市の安芸城、高知市の朝倉城に吉良城、津野町の姫野々城に中土佐町の久礼城、いずれも岡豊城に劣らぬ遺構を残して人々を待っている。岡豊城を拠点にこれら土佐の中世城跡をめぐる。それぞれの城は乱世を生きた先人のしたたかさを語り、同時に未来へ漕ぎ出す知恵と勇気も与えてくれる。

「土佐戦国の城回廊」構想実現への夢は広がる。

考古

史跡・遺跡散策

初夏の休日、久しぶりの晴れ間が覗きました。文化財関係のエキスパートの友人と文化財のボランティアに午前中に参加。午後は、土佐考古学上著名な弥生遺跡を散策しながら帰ることになりました。田園風景と初夏の匂いを楽しみながらの遺跡探訪、しばらくすると昭和の風景が少し残っている家並みを発見。その場所で、遺跡の立地する谷の斜面の写真を熱心に撮影していると近所の人が気さくに声をかけてくれました。事情を説明すると「この谷からそんなものでできたのですか」と驚かれました。この谷の地名は、神の字がつくとその方は教えてくれました。

「こんなところに遺跡がね」と世間の人々は、驚くのです。つい最近の昭和のことさえ、意外と記憶されていないのです。ましてや先人が地下に残した足跡となればなおさらのことです。そういえば最近村井実氏の「路上遺跡」探訪のススメ（『東京の遺跡』88）という文章を読み、かの有名な歌に出てくる東京都千代田区有楽町駅前地下広場に、南町奉行所（大岡越前守役宅）跡出土の木槽の実物と木札のレプリカの展示があることを知りました。東京にはこのような路上遺跡とも称する事ができるものがいくつかあるようです。運動をかねたウォーキングに、遺跡や史跡を探访することをとりいれたら楽しく歩けるのではないでしょうか。もう一つ昔の風景写真と比較しながら歩くことを加えるとより深く探訪できそうです。

（岡本）

歴史

吸江寺文書が寄託されました

国指定史跡となった岡豊城跡。その岡豊山に立地する当館の活動にも今まで以上に関心が高まっています。

岡豊城主・長宗我部氏の資料（古文書・美術工芸品）に関する研究は、少しずつですが前進してきており、そのささやかな研究成果は、企画展や特別展といった形で公開してまいりました。

ただ、古文書については、これまでに確認されている史料の多くが断片的なものであり、政治・軍事・経済・宗教政策等の表面的な部分しかみることができませんでした。

今回、高知市史編さん委員会の仲介を経て、当館に寄託されることになった吸江寺文書は、足利將軍家や土佐国守護細川氏一族からの文書をはじめ、寺領荘園関係・法度など、中世土佐における禅宗寺院の実力を知る第一級史料群です。

細川氏に仕え、寺奉行（俗別当）として、代々吸江庵領（荘園）の管理・運営にあたってきた長宗我部氏三代（国親・元親・盛親）からの文書もあり、同氏が他の国人を圧倒できた理由の一端をみる事ができます。

当館では、これからも関係者のご期待に添えるよう、研究活動等に努力してまいります。

（野本）

民俗

茅葺き民家・味元家のふるさと

今秋、茅屋根の葺き替えをする当館の民家（旧味元家）でかつて行なわれてきた行事を再現できないかと、一昨年から民家のあった津野町の年中行事調査を行なっています。

写真1は、津野町力石地区の盆の飾り。仏壇ではなく、戸棚に位牌を祀っているのが古風です。その両脇に、栗や柿の枝、トウキビ、田芋、ソウハギなどを飾っています。両側の丸い物はオカガミと言つてうどん粉の餅をフライパンで焼いたものです。

写真2は、同じ地区の高ボチ（高ボテ）です。夕方日が暮れると、高い竹を立てて松明に火をともしました。県内では行なっている所は少なくなりましたが、この付近では今も続けている家が結構あります。まぼろしの行事を、こうして実際に見ることができると驚きを感じています。

（梅野）



長宗我部覚世(国親)裁許状 吸江庵納所禅師宛 弘治2年



写真2 高ボチ



写真1 盆の飾り

事業課便り

事業課が担当する

企画等のご案内とご報告

山村民家茅葺き屋根

葺き替え作業

当館の屋外展示の味元家住宅の、茅葺屋根を一月に葺き替えます。長年の風雨にさらされて傷みもはげしくなり、茅を全面葺き替えます。これにあわせてこの葺き替え作業のボランティアや葺き替え体験の参加者を募集いたします。

茅葺屋根の住宅をほとんど見かけなくなった現在、茅の葺き替え作業を間近で見て、体験できる絶好の機会です。で、ぜひ一月は岡豊山において下さい。詳細は当館HPや当館受付の案内チラシをご覧のうえ、お申し込みください。皆様のご協力・ご参加をお待ちしております。



一九九〇年 味元家移築時の茅葺き作業の様子

土佐のまほろば地区

カルチャーウォーキング

当館の宅間館長の案内史跡解説による、岡豊山近辺の史跡巡りウォーキングを開催します。

「花・人・土佐であい博」の協賛事業として、十一月二日（日）と九日（日）に、岡豊コース・国府コースに分けて行います。両コースとも約七km前後で、昼食には野趣溢れる岡豊苑「御狩り場御膳」が付きます。参加費は昼食込みで岡豊コースが二、四〇〇円、国府コースが二、八〇〇円です。お申し込み方法や詳しい内容は、ぜひ博ガイドブックをご参照いただくか当館までお問い合わせ下さい。



館航空写真 まほろば地区

岡豊山フォトコンテスト

入賞作品のご紹介

本紙前（六四）号でご紹介しましたコンテストの入賞作品（優秀賞）二点のご紹介をさせていただきます。

優秀賞「陽春」野島哲博様



優秀賞「朱華」渡部忠男様



応募作品はすべて、当館一階のミニギャラリーとフリースペースで展示させていただきます。来館者の好評を博しました。来年度も桜の季節に「岡豊山フォトコンテスト」を開催いたしますので、皆様の作品をお待ちしております。

郷土の食を語る・味わう 食のふるさとへ

当館で開催されています「食のこころ」講座も三年目となり、毎回定員一杯の受講生の方々に参加していただき開講以来一、四〇〇余名の参加者（八月末）を数え、当館の名物講座となつてまいりました。

毎回、県内各地域の食文化を当館で再現・提供していただいておりますが、本年度はこちらから県内各地域へ受講生の皆様と一緒に出かけ、食の現場・産地に触れてみようという企画を行います。

「食のこころ」に行動（アクション）という調味料をプラスした「食の故郷（ふるさと）」出張講座と題して、県内各地を訪れます。

記念すべき第一回目の訪問先は、十月十九日（日）の大豊町です。

大豊町は国宝の豊楽寺薬師堂や国指定建造物の旧立川番所書院を有する歴史溢れる町で、地産地消活動による町興しにも力を入れている、とても元気な町です。

来年三月には、北川村への「食の故郷」出張講座を予定しており、年に数回は歴史館を飛び出して、皆様と一緒に「食の故郷（ふるさと）」を訪ねたいと思いますので、ぜひご参加下さい。

記念グッズと図書のご案内

岡豊城跡国指定史跡記念品
岡豊城跡・長宗我部氏切手シート
期間限定販売!



数少ない長宗我部氏の遺品が切手になりました。お馴染みの元親の画像の他、愛用の兜、漆椀。長男信親の筆といわれる水墨画。四男盛親の遺品も揃っています。各資料の説明書もセットで1,500円。絵葉書展開催にあわせて1,000シートのみ限定販売ですので、是非この機会にお買い求めください。通信販売もいたします。詳しくは当館のホームページをご覧ください。

企画展図録

『鯉一カツオと土佐人』

A4版 112頁 定価1200円 送料290円

研究紀要・収蔵資料目録

『高知県立歴史民俗資料館研究紀要』第16号

A4版 63頁 定価450円 送料290円

『収蔵資料目録第13集 寺石正路関係資料目録Ⅱ (歴史分野)一般書籍・和本編』

A4版 122頁 定価750円 送料290円

新刊パンフレット「岡豊城跡」

定価300円 送料140円

口座番号 01610-2-38806
加入者名 高知県立歴史民俗資料館

岡豊風日(おこうふうじつ) 第65号
平成20年九月一日
編集・発行 高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1
TEL 0888(862)2211
FAX 0888(862)2110
開館時間 午前9時～午後5時
休館日 年末年始12月27日、1月1日
臨時休館あり
観覧料 通常期(常設展)大人18才以上 450円・団体(20人以上)360円
〔企画展〕常設展示込500円・団体(20人以上)400円
無料 高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(一名)
印刷・川北印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/ rekimin/
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

平成20年9月～12月の催し物

企画展

『絵葉書のなかの土佐 - 移ろいゆく時代の記憶 -』

平成20年9月26日(金)～11月24日(祝・月)



明治から昭和初期において、絵葉書はその時代・世相を映し出すメディアの役割を果たしていました。今秋、当館の館蔵資料の他、県内のコレクターなどからお借りした絵葉書約500枚が歴史館に勢揃いします。観光地の単なる土産としてではなく、近代史の資料としてご観覧いただくと楽しみも増します。また、明治期の郵便局窓口を復元し、戦前の郵便事業を紹介するコーナーも設置します。ご期待ください。

座談会 電話かeメールでお申し込み下さい 先着80名

10月18日(土) 14:00～15:30

『絵葉書の中の風景を語るー土佐の明治・大正・昭和ー』

講師: 坂本正夫氏(前館長)・宅間一之(館長)

れきみん講座 電話かeメールでお申し込み下さい。先着100名

10月25日(土) 14:00～15:30 『絵葉書の歴史』

講師: 担当学芸員

展示室トーク 申込不要 入館料要

9月27日(土)・11月15日(土) いずれも土曜日 13:00～14:00

講師: 担当学芸員

ワクワクワーク 電話かeメールでお申し込み下さい。定員先着30名

11月9日(日) 13:30～16:00 『虫くい葉っぱで葉書をつくろう!』

講師: 白川基子氏

史跡めぐり

10月4日(土) 『阿波の史跡と四国霊場』 9月18日申込締切

11月1日(土) 『今治周辺の史跡めぐり』 10月17日申込締切

11月16日(日) 『津野町高野の津野山古式神楽』 10月27日申込締切

専用の申込書をご請求のうえお申し込みください。
応募者多数の場合は抽選となります。

土佐のまほろばカルチャーウォーキング 電話かFaxでお申し込み下さい。先着各30名

11月2日(日) 10:00～15:40頃 西周りコース

11月9日(日) 8:30～15:00頃 東周りコース

高知の食文化を味わう～食のころ～

10月19日(日) 『出張講座大豊町食の故郷(ふるさと)』

10月は「食のころ」の特別編。大豊町の名産碇石茶の製造現場の見学や歴史的名所を巡る現地ツアーです。昼食は大豊町の郷土料理をたっぷり召し上がっていただきます。8:00に歴史館出発予定です。

申込要 実費要 申込多数の場合は抽選

9月10日より申込受付開始 詳細はお問い合わせ下さい。

岡豊山の音楽会 申込不要 入館料要

11月23日(日) 14:00～17:00 『琴と尺八・三味線の演奏』

地元で活躍する尺八演奏グループのおさらい会です。

琴古流尺八竹童社藤寿会高知支部

次回企画展の予告

昔のくらし博物館 - 失われゆく衣食住の民具 -

平成20年12月19日(金)～平成21年3月1日(日)

当館の収集した民俗資料の中から日常のくらしに使われてきた民具を展示します。